

## 輓近の國際政情と貿易關係

苦 米 地 英 俊

## 一、

世界經濟會議の決裂に依て今やマクドナルド首相の言葉をかりると「世界は失望の苦杯をドン底まで嘗め盡さざるを得ぬ」事態に直面することになった。

協調と妥協とに依て光明ある世界を現出し得る十分なる科學的根據と總明さとを有する人類が、何故に世界三千萬の失業群を抱いて苦悶し矛盾の旋風に自から投じてその渦中に苦惱しなければならぬのであろうか。對症療法的な各國不況對策が世界經濟會議を必要ならしめ、而かもその政策固執が會議を決裂に導いた。その不徹底さは全く常識を逸してゐるかにも見えるが、世界の苦惱は到底臨床療法的悠長さを許さぬのである。モロヒネ中毒が永久に健康を害するか否かを問ふ暇がない。病苦の痛烈さをたとひ一ときでも遁れ度いのである。如何にして

一時を偷安するかゞ問題である程までに苦悶懊惱の極に達してゐる。これを否定するならば會議に於ける各國代表の演説は全く虚偽の羅列と見る外はあるまい。假に百歩を譲つてこれを肯定しても、本年四月から五月にかけて華府で行はれた豫備會商に先立つて國務長官ハル氏が「米國は過去十年乃至十二年間に亘り高關稅を設定し、國際貿易を梗塞せしむる惧れあるその他の障壁を設けた。從て經濟的國家主義の誘致に關して米國は重大なる責任をとるべき國の一つであるが、今こそその責任を自覺して健全且つ建設的なる方向に轉換すべき時期である」と垣懷率直に聲明した米國の態度を後に會議の成功を不可能ならしめた米國の態度に比して、かの聲明に世界を瞞着愚弄した言に過ぎぬと速論する譯には行くまい。要するに人事萬端が理論通りに進行すべきものと簡單に片付けやうとする考へ方が間違つてゐるので、生きんとする鬭争の間に生れ出づる矛盾動向こそ人生の自然現象ではあるまいか。それはともあれ、現存する矛盾動向の裏に潜む眞理をしかと把握しなければ實際に即した人生の行路は見出せまい。「山は高く海は深いそのありの儘が平等なる姿である」といふ禪家の言葉に深遠な暗示を見出す。

## 二、

陰鬱無明の現世界をその行詰から更生せしむる途は國際經濟機構の常道に各國が歸復する外にもとめ得ない。そのためには先づ國際政情の安定を圖り、あらゆる不安を一掃し、相互の信用を取戻さなければならぬ。この點については意見が完全に一致を見てゐるけれども、各國の經濟、政治の情勢は必ずしも一致するものでない許りか、寧ろ氷炭相容れざるものが多く、利害相撃ち利に依て結ばれ利に依て離れ、矛盾に矛盾を重ね、集合離散の

颶風は世界の到る處を吹き捲つてゐる中に恐るべき低氣壓が地球上二ヶ所に發生してゐる。その一つは獨逸を中心とし、他は太平洋をめぐつて發達しつゝある。

一九一四年世界戦争の火蓋が切られたとき、時の英國外相グレー卿は悲痛なる叫を擧げて「全歐のランプは將に消えんとしつゝある、吾人の生存中に再び點火を見るに至るまい」といふたが、五年に亘る慘劇の幕が閉ざれ、ヴェルサイユの平和條約が調印せられて茲に十有五年の歳月は早くも流れ去つたが、歐洲のみならず全世界の吹き消されたる燈火は今も點火せられず、暗雲が垂れ込み、陰慘なる霏雨が降りしきつてゐる。

ウイルスン大統領の所謂「デモクラシーを確保し戦争を終結せしむるための戦争」の結末たる平和條約はその誇稱宣傳せられた目的とは全く背反した結果を生み出し、世界は戦前よりも更に悪化せられた觀を呈してゐる。戦争責任問題は徒らに獨逸國民の憤怒を買ひ、賠償金問題は戦債問題と結合して國際經濟を破壊し、民族自決主義は不自然なる國境の改變を取てし、國家有機組織を無視し他決的に解體し群小國を創成し、文明民族を却て後進民族の支配下に置く暴舉に出でた。國際聯盟は不平等なる過去に新なる不公正を加重せる現状の維持を企圖する機關で、伊國航空大臣バルボ氏の所謂英佛米の外交製造所たるに過ぎぬ存在である。この平和機構の補強工事たる華府條約、九ヶ國條約、不戰條約、倫敦軍縮條約も指導的立場にある英米が國際協調に名を籍り、國際平和の假面を被つて國家主義を確保強化する便宜に過ぎぬとさへ信ぜらるゝに至つた。

かゝる信念の妥當性如何は暫く別としても、恚した霧圍氣の中に醸成された二つの事實は見遁し得ざる重要性を持つ。安全保障の下に立つ弱小國が理不盡な横暴を取てするに至つた事と、現存する不平等不公平打破を不可避とし、平和條約を最終的決定と認めない國家が虎視眈々として機を狙つてゐる事とである。「國際秩序の整合

は決して人類の道徳的動機からではなくして利害の打算から來る」とカントが喝破せる如く利害に依て互に集團をなし、爰に現狀維持派と現狀打破派との對立を形成することになつた。

平和條約は序上の如く戰爭を地上から驅除することについて全然失散してゐるのみならずデイモクラシー確保の點に於ても亦失敗の跡が歴然としてゐる。複雑錯綜せる利害の衝突から國際協調が先づ破れ、依然として國家主義が強調せられてゐる。世界戰爭の生んだ顯著なる一大事變は赤露の出現で、これがためにあらゆる種類の闘争が激化した。階級闘争、革命運動、民族運動等がこれであり、その何れもが左傾運動と結合して動いてゐる。これに敢然反抗して起つたのがファツシオー運動である。これらは左右兩極をなし相反笠して氷炭相容れぬものであるが、その何れもが獨裁的であるところに共通性を持つ。この色彩こそ現代國家主義を特徴づける逆轉動向でこれを一括して經濟的國家主義と見るべきであらう。

前世紀に全盛の極に達した資本帝國主義の國家は自由思想を基調とし立憲政治を理想とした。この政黨政治は多數を以てすれば事の善惡賢愚に拘らず何事でもなし得ざるなき組織であり、従てこの組織にあつては英雄的存在、乃至獨裁的善政をも許さない。そこに多少の缺陷がないではないが、封建的獨裁政治下に於ける奴隸的生活から解放せられたる自由の明光が輝く。併し現在の如く國際的にも國內的にも軌道を逸失して疾走する世の中に處するには幾多の不便と不利とが伴はざるを得ぬ。そこにムツソリニーやヒットラーの存在理由があり、又各國に於て舉國內閣協力乃至強力内閣その他の名稱で呼ばれる獨裁傾向を帯びた政治が行はるゝに至り、デイモクラシーの本家本元たる英國に於てすらこの色彩が明瞭に認められ關稅等の問題につき政府に獨裁權を附與し、又米國に於ても歴代大統領中未だ嘗て有せざりし廣範圍の獨裁權が議會に依て許容せられてゐるなどは悉く世相の動

向風位を示すものであるが、この獨裁權は例外なしに自由の束縛と經濟の鎖國とに使用せられてゐる。かゝる逆轉動向の是非は別論で、歴史は過去を繰返へしつゝ新なる衣を纏ふてふ事實をその中に見出す。新緑の衣こそ結成に向ひつゝあるブロック經濟への道程を基礎づけるものではあるまいか。

### 三、

本年一月ヒットラー政權確立は歐洲低氣壓の進路を一轉し異常の緊張さを以て迎へられたが、半歳後の今日俄然世界の耳目は獨塊問題に關心を以て集注せらるゝに至つた。

これに依て對立關係が更に複雑化し、その軌道が紊れたかの觀を呈してゐるが大勢は不變で英國は往時の「光輝ある孤立」の態度と老獪さを巧に利用し不離不即を國是とし、佛との交友を棄てず、伊を語らひ、時に獨に秋波を送る。そこで安全保障に敏感な佛國の神系がいらだち、益々國際聯盟を固執し、平和條約の神聖を主張し、頑迷にその改變を拒否してこれを安全保障の第一線とし、不戰條約をその第二線とし、白耳義、波蘭、チェコスロヴァキア、ユーゴスラビア及びルーマニアを盟邦としてその第三線としてゐる。これに反抗し現状に不満を懷きその打破を企圖するものには伊、獨、塊、匈、希、アルバニア及土等の諸國があり、この二系統の對峙がさながら歐洲を憤火口に置いてゐる。この對立に於て佛系は作戰上頗る不利の地位に立つてゐる。第一に自耳義を除く小協商國は他の系統に屬する諸國に依て連絡が中斷せられ、次に唯一の交通路とも稱すべき地中海上の制海權は伊國大海軍に脅威されてゐる。更に又小協商國は何れも皆敵國の重圍に陥つた如き隊形をなしてゐる。この状態ではどうしても英國海軍の協力なしでは安全保障第三線薄弱無價値に近い、そこに佛國の焦慮が見られ

る。

チエコスロヴァキアはチエツコ族とスロヴァツク族とを結合し、ボヘミア、モラヴィア、及びシレシアの一部を與へて他決的に造り上げた國である。獨逸民族が密住するボヘミアを墺國から奪取してこの國に歸屬せしめたのは如何に最負目に見ても自決主義に戻るが、佛國の與國を強力化せんとする魂膽に出でたるものと見られる。この國はその銚先を獨逸の中腹に突き込み、南墺、匈に乗りかゝるやうな形態をしてゐる。

ユーゴスラビアは墺匈兩國の犠牲と、セルビア、モンテネグロを併呑とにより、複雑せる民族を他決的に一括して創設された國家で、その軍事と財政とは佛國の手が相當根深く入つてゐる。伊、墺、匈、希、ブルガリア、アルバニアの重圍を受け、ダルマシアを領有して薄氷を踏む思をしてゐる。伊國の恨がこもるこの垂涎の地が將來禍根とならなければ幸である。

ルーマニアは戦後領土の擴大と財政經濟不良とで著名な國であるが、匈牙利の領土を侵食してその憤激を買ひ、不倶戴天の對峙を續け、ベツサラビア問題で赤露と融和を缺き、昨年佛露不可侵條約締結に際しても佛國系諸國に合流參加するを欲せず、本年七月に至つて漸く佛國の意を迎へた有様、現狀維持系の浮動分子視せられてゐる。

波蘭は佛國系中最有力な復興國であるが、平和條約直後の交戦以來赤露との關係釋然とせず、獨逸とは所謂ポーリッシ・コリダ問題を中心として妖雲天を蔽ひ怪火地に充ち、歐洲平和破綻の震源地と目され、全歐洲政界は一日として安き心もない有様である。この廊下問題は民族自決主義の名に於てなされたる最大拙策であるとさへ評せらるゝもので、十八世紀にフレデリック大王の遺したる罪業の是正で、九〇%に上る住民を自決更生せしめ

たものと稱せられてゐるが、實はポーランド三千二百萬の國民に海港附與を目的とした無理押しであつた。ポルティック海に至る領土の延長を圖るため獨逸をして上部シレシア、ポーゼン、西プロシアを拋棄せしめ、獨逸を貫通せる廊下に依て東プロシアを北に孤立せしめたのは不合理であり不自然でもある。それ丈けに獨逸としては忍び難いものがある。この廊下の尖端にダンチツヒ自由市がある。その住民の九六%は獨逸民族で廣汎な自治權を有してゐる。古來純然たる獨逸國の一部であつたこの自由市が無理に切取られたのであるから獨逸國民は頗る憤激おく能はずで、獨逸國民はその奪還の念に燃え、住民は熱意歸還を欲してゐる。ポーランドは歸屬以來その唯一の海港として市は日に隆盛に向ひ輸出入貨物も往時の四倍に達した。併し經濟的繁榮にのみ人は幸福を見出し得るものではない。不満に白熱せるこの自由市に對して波蘭にも不満と不安とがある。ダンチツヒの外交權こそ掌握して居るが、自由市をその主權の下に隸屬せしめ得ない不満があり、有事に際してその市民の向背が直に戰局を支配する。恚した不安から市の附近に兵を駐屯せしめ、港外に軍艦を配置するなどしたので、感情が益々尖鋭化したこともあり、又ダンチツヒの西南七哩の處に巨費を投じてグデイニア港を修築し、商權爭奪し、且つは戰時の備へとした。こゝに更に一問題を提起するに至つた。

更に又廊下を狭むだ獨領間の交通、通貨その他につき種々の緊張した外交問題が絶えず續出し、波蘭の秕政が國際聯盟や國際裁判等に確認せられ、その改善を要求されても、何等是正の跡がなく、獨波融和の影は微塵も見えない。然るに最近ダンチツヒ市にナツイス政權の確立を見るに至つた。

獨波兩國の根底深く而かもその紛糾たるや各々の生命線に觸れてゐるので解決を容易に望み得ぬものである上に、獨逸及びダンチツヒのナツイス化は更に拍車をかけて歐洲の癩を惡化すべく、危機を朶む暴風雨の襲來は只

神のみぞ知る問題である。

#### 四、

獨逸は平和條約に依て二十萬八千七百八十平方哩の領土の約七分の一を失ひ、その國民六百五十萬の人口がそれと共に國籍を脱した。而もその喪失國土に埋藏されてゐる鐵・鋼等の工業資料が佛蘭西、白耳義、波蘭の手に歸し、ザールの石炭は佛國炭礦荒廢の補償とし、且つ賠償金支拂の擔保として十五ヶ年間佛の占領採掘に任かすことになり、而かもその期限經過の際（一九三五年）その住民の一般投票に依てその所屬國が決定されることになつてゐる。

佛にアルサス・ロレンを、ポーランドに西プロシヤの大部分、ポーゼン、上部シレシアを、チェツコスロヴァキアにフルチンランドを、リシアニアにメーメルランドを、白耳義にオイペン及びマールメデー地方を、デンマークに北シュレスウイヒの數地方を割讓せしめられたが、その内民族自決の一般投票が用ひられたのは僅に四ヶ所に過ぎず、而もその施行方法が公正を缺いたものが多い。これが獨逸の忿懣を一層激化する原因となつた。何れにしても獨逸は經濟上からも、又國民的感情の上からも領土の回收に狂奔し熱烈なる欲求を充さなければ止まぬ決心である。けれども平和條約を楯に現状維持派は國境變更問題を斷固として拒否してゐる。合法的に國境是正の妥協を實現することが絶望的なのを知る獨逸國民は益々猛り立つて平和條約の打破、不當なる強要の非合法的排除を絶對必要として、而かもその至難の業に直面して憤激は益々尖鋭化して來た。

四ヶ年餘に亘る大戰で國力の疲弊はその極に達してゐる。その上に産業に必要な領土を奪はれ、軍艦、船舶



畜類等の賠償の外に、更に實行不可能なる巨額の賠償金負擔を強要せられたのである。若し一九二一年に倫敦で決定の計劃に従つて一、三二〇億金麻を支拂ふとすれば、否、一九二八年のヤング案による三五〇億金麻としても、五十九ヶ年の年賦期間は勿論のこと、その後と雖ども獨逸國民は長く奴隸の境遇におかれることになるのは必然である。これは獨逸國民の到底忍び難きところである。況んやこの負擔不履行の今日でも國民生活は言語に絶してゐるに於てをやである。かゝる焦熱地獄の生活苦は憤怨より絶望に、絶望より自棄に國民を逐ひ、大衆を驅つて過激化し左右兩極に走らせる。大資本の壓迫、金利高にあへぐ小商工業者、不遇に泣く退職軍人、回顧の念止み難き帝政黨或はエンケル黨の面々各々その主張と目標こそ異なれ、平和條約を呪ひこれが打破を企圖する一心に於ては完全に一致し、波瀾重疊の間に揉みに揉まれて何時しか左右何れかの奔流に捲き込まれ事態は急轉直下の勢で一途激化して行く。

ストレーゼマンの外交（一九二三年―二九年）は頗る妥當性に富み穩健な行路を辿りつゝも尙よく平和條約是正に着々成功を収め、朝に一砦を抜き夕に一壘を陥れる體の進歩を見たにも拘らず、獨逸國民は少しもこれに共鳴せず、寧ろこれを軟弱外交と罵倒し、その手のろさに焦慮し却て憤激をさへ加へた。

一九二四年ドーゾ案の成立に由り米英その他より資金の融通を得、獨逸の財政經濟が建直され産業復興も目覺しく一九二七・八年に亘りその最高調に達し、これを翌二九年に持越し、その秋十月紐育ヲール街を襲つた株式市場の大恐慌に米英の不況が一層深刻化し世界原料産出國は英米没落の餘波、大打撃を蒙り未曾有の不況に生色を失つたにも拘らず、一時獨逸はその影響を免かれたかの如くに見えたが、遂に、徐々として迫り來る不況の波に押流され一九三一年六月墺國一銀行の破綻に端を發した恐慌が獨逸財界に波及し、賠償金外債踏倒をヒットラ

が絶叫するに及んで俄然資本遁避が急激となり恐慌襲來を招き、ライヒスバンクの支拂停止となつたが皮肉にもこの難局が却てヒットラ擡頭を促す一階段を劃するに至つた。

この騒で七月十三日に議會解散となり九月十四日に總選舉が行はれたが、ヒットラの強硬外交論が人氣に投じナツイスの議席は著しく増加し、恐怖に脅やかされた資本遁避のために金融逼迫彌急を告げ失業者に一舉に倍加し百五十萬を數ふるに至つた。

## 五、

奥國財政經濟の危機は戰後連續的存在で、慢性的状態にある。そして平和條約の改定されざる限りその更生は至難と見られてゐる。帝政時代に十一萬六千平方哩の地域と二千八百五十萬の人口とを有した國が今では國土四分の一強を失ひ、人口も亦四分の一弱にまで削除せられ、波蘭にガリシアを、チェコスロヴァキアにボヘミアを、伊太利にトリエストを奪取され、匈牙利と分立後の殘骸には蘇格蘭大の國土しかなく、而かもそこには鑛山森林もなく又重要産業もない。全く有機的國家の體裁を備へぬ一貧弱國に過ぎざる存在となり、外國恩惠的援助にすがつて僅に露命を繋ぐ、昔の倂もない見るも哀れな成りの果である。獨逸合同大獨逸建國の機運は恚うした事態の下に急進し白熱化した。併し若し萬一これが實現すると人口六千九百萬に對し佛國の人口僅に四千二百萬の比となり、安全保障を脅威する結果をもたらす。この故に平和條約はその合同を禁止してゐる。又一九二二年ロザンヌの會議に於て奥國は財政經濟上の理由から獨立を拘束するが如きことを決してなさぬことを誓約し、その條件の下に佛國資金の融通を受け、破綻に瀕した緊急財政を切脱け得た。一時はそれで凌ぎ得たが根本計劃樹

立は到底不可能で、且つ屈辱的高利の外債も思ひに任かせぬ。唯一更生、合同の途は既に梗塞されてゐる。この事情の下に考案されたのが獨逸關稅同盟で獨逸政府の提案に獨逸は卒爾として策應した、佛國はこれが抑壓手段として資金の引上を斷行した、爰に獨逸は忽ち金融逼迫を感じ、銀行の破綻を生じその餘波は獨逸を前説の混亂に陥れた。かくて一時歐洲の政界を驚かせたこの關稅同盟は到底成立の見込なきことが明かとなつたので、國際裁判判決豫定日の二日前に獨逸兩國は關稅同盟案放棄を聲明しそれで結末を告げ、昨年佛國資金の援助を再び得られるに至つた。

かゝる波瀾續出の間にヒットラはその雄辯と豪膽と強硬人氣とに依て人心收攬に成功し、ナツイスの勢力は飛躍的進展を見せ、一九三二年三月の大統領選舉に際してはヒンデンブルグ將軍と羈を競ひ千百萬票を獲得し黨員も亦過去一年有半に約二倍の増加を示した。その一方失業者は六百萬人を超え、これを戦後の産業最盛期たる一九二八年に比すると正にその八倍を算するに至つた。然るに一方「獨逸は賠償金を支拂ふ意思もなく又その能力もない」と放膽なる宣言をなし、一八七一年より一九一四年に至る外交文を公表して戰爭責任問題の不當を鳴し、軍備平等を強請して軍縮會議脫退を以て國際聯盟を威嚇し國民の喝采を博し、列國の妥協讓歩は悉くナツイスの成功を看做され、七月のロザンヌ會議に於て一九二八年のヤング案に依る三五〇金億麻の賠償金が三〇億金麻に引下げられ、その支拂方法も亦著しく緩和され、又ジュネーヴ軍縮會議に於て原則的平等が承認せられた等の外交の成果はナツイスの信頼を増し、黨擴大の因となり、七月末選舉には千四百萬票を得て議會に壓倒的大多數を制し、大勢こゝに定まつた。かくして十一月選舉に於ける多少退歩にも拘らず、本年一月遂にヒットラ政權確立しナツイスの天下となり、刊行物は箝口せられ、共產黨は彈壓せられ、四ヶ年の獨裁權が議會に承認せらるゝ

や、彈壓の手は更に伸び一黨主義の建前で他の政黨解散を強行し、ユダヤ人を彈壓し、ダンチツヒ自由市にナツイス政權を確立し、續いてバイエルンに於ける政權を奪取し、こゝにその鋒銛は内政より外政に向けられ、現狀打破派間の利害衝突を曝露した。

## 六、

伊太利は聯合國側參戰の報償を平和條約に於て約束通りに與へられず、北亞弗利加に、ダルマシアに少くとも伊の見地からは問題が未決の儘残つてゐる。この忿懣と人口問題とから伊が現狀打破に傾いたのは自然の數である。伊が佛に抗爭し獨に好意をよせた理由はそこにある。又ヒットラもムツソリニを憧憬しファツシヨ一の信奉者を以て自から任じ、獨伊の握手を求めた。水心に魚心、かくして成立可能なる獨伊の接近を各國は恐れを懷いて眺め一旦緩急あるときは塙國は第二のベルギの地位に陥りブレンナを越えて直線四十二哩の地點は兩國連絡の第一の犠牲たるべきを思はしめた。然るにナツイスが軍備平等の實質化、殖民地の返還、賠償金の全廢、獨塙の合併、ポーリツシ・コリダの改變、その他平和條約の根本的變革を強要するに至るは不安なきを得ない。若し政權を掌握した今日ヒットラが黨を巧に操縦してこれら政綱の緩急を計り、調節を得るにあらずんば歐洲の平和は攪亂され流血の慘を演出するを免れぬ恐れがある。然るにヒットラはムツソリニの遠き慮を缺き向ふ見ず式の突進をなしかねまじき勢が見える。全歐洲が極度に緊張して重大なる關心を以てナツイスの行動、國內の成行を看視してゐる所以は實にこゝにある。本年三月英首相マクドナルド氏がローマを訪れムツソリニと會談し、佛國及びその與國反對により骨拔されたにせよ兎に角枉りなりにも四國協力協定を成立せしめたのも恚した憂慮からで

あると噂されてゐる。

この會見後歸英したマクドナルド首相は議會に於て「條約は總て神聖である、併し如何なる條約も永久的ではない」と演述したが、これは或る程度佛系の讓歩に依て平和條約改變する必要を認む同時に獨の昂奮せる神經を墳靜せしめるためと見られてゐるが、獨佛に及ぼした相反擊する反響は頗る重大視されてゐる。ヴィエナ條約破壞の跡が十九世紀の歴史である如くにヴェルサイユ平和條約崩壞史が今世紀の歴史を作るのではあるまいかといはれてゐる。

## 七、

ナツイスの南下侵擊の策動に由て獨塊間に戰雲が漲り、戰機刻々に迫り、何時火蓋が切られるかの見當さへつかぬ狀勢にまで逼迫して來たので、英佛伊は歐洲平和維持のために共同軍事行動の必要あるべき豫想の下に或る協定をさへ纏めたと傳へられてゐる。

往昔ビスマークが企圖して成らず、又講和會議以來屢々民族統一運動が熾烈を極めた事實に鑑み、今日に及んで獨國政府がこれに反對し抗爭するのは一寸と奇異の思がするかも知れない。殊にルドルフ首相自からが以然合同論者であつた事實から尙更その感を深くする。が併し、ナツイスの誣言する如く佛その他よりの八千萬圓借款の約束でルドルフ首相の心境が變化したものは信ぜられない。轟々たる合同論旺盛の最中にも、歴史ある國家の獨立維持を心願とする相當有力團體が存在してゐた。而してヒットラが政權を掌握し、ナツイスの暴虐至らざるなき行動を見、ナツイスに非ざれば人にあらずとなす態度に接して、自由思想を今も心に刻む人士がナツイス

を嫌惡極端に排撃の情を起したのが今度兩國が相反目する原因となり、更に合同は四圍の狀況から見て寧ろ國民を更に難地に陥れるとの考慮も加はり政策の轉向を賢明としたものである。

現状打破派の伊太利はヒットラに初めから警戒してゐたことは四國協定に於て既に見られるが、更に伊太利には南チロルの獨逸人口問題があるのみならず獨逸の合同に依て強國が北よりせまることを欲しない事情があるので極力阻止せんとする意向がある。然るに一方獨逸は關稅同盟失敗後、墺國財政經濟の行詰りとユダヤ民族に對する墺國民の反感とに乗じてナツイス運動を頻りに煽り、現政府を轉覆し、ナツイス系政府の樹立に依て合同達成を劃策した。

墺國の惱はユダヤ民族問題である。この民族は頗る順應性に富み、戦後獨逸民族の七轉八苦してゐる中に獨り新なる境遇に適應して繁榮を築き上げてゐる。これは獨逸共通の現象であるが、墺國に於ては新聞、雜誌、商業、醫者、辯護士等の職業が彼等の掌中に歸して來たところから知識階級、殊に學生、教授、裁判官、官吏等の間に反ユダヤ民族熱が沸騰し勢ひその人々がナツイス化することになつた。是に於て政府は一方官吏軍人等に對しナツイス排撃、政府忠勤の宣誓をなさしむるに至つた。又他方ナツイス彈壓の手を盡した。而してナツイス運動の策源地をなしたヒットラの使節を國外退去を暗示し、こゝに兩國抗爭が極度に激化して來たのである。

## 八、

國際政情の恚した不信、不安に依て暗黒化された世界が盲目的に強化された逆轉動向を生み、これが波及して經濟的國家主義を形成し、遂に在來の國際經濟機構を根本的に破壊し盡さんとしてゐる。蓋し時代的自然の勢で

あらう。

近世の國際經濟は交通貿易の自由を基調とし、こゝに初めて國際分業が發達し、大量生産、機械工業を可能ならしめたのである。然るに戰時に不自然に發達を遂げた産業の保護と國防の觀念に培はれた自給自足運動が轉じて、戦後の不況打開策の一方として勸奨せられた國產愛用運動と結合し、これが政治逆轉動向と相待つて經濟鎖國的傾向に拍車をかけた。戦前と雖ども關稅障壁もあり沿岸貿易の制限もあり交通貿易が絶對自由であつた例は決してない。けれども世界の七分の一を領土とし、且つ最大債權國であつた英國が自由貿易國で、その領土たる、加奈陀、濠洲、南阿、印度等の諸國が比較的開放主義を守り、本國と外國との間に差別待遇をなさず、英、佛、獨等の海外投資も亦旺盛であつた爲めに國際貿易は比較的圓滑に運ばれたが、戦後交通金融系統に異狀を來たし、物資の需用が大角度の轉廻をなし、一方新興産業の擡頭し他方衰退産業が現はれ産業軌道がこゝに一變した。

如上産業軌道の轉向は必ずしも時運の進化に伴ふ必然のみでなく、新興資本國たる米國の政策が輸入超過國たることを頑迷に拒否し、金の偏在を益々加重ならしめ、佛國も亦本國及び領土内に於てほゞ自給自足の可能なる立場を利用して鎖國的政策を採用し、正貨の蒐集に力めた。この兩國の政策に依て資本、人、物、サービスの移動が梗塞せられたところにこの産業軌道の轉向の度を更に大ならしめた點が見える。これに依て最大なる打撃を受けた英國が昨年七・八月のオタワの議定に従つてブロック經濟に轉換した蓋し自然ではあらうが、併し孤立經濟國家主義の近時操返へされたる失敗跡に鑑みて、更に又、英帝國が國外貿易を必要とする程度、英本國の食料品及び原料品供給の状態、自治領工業發達の將來等の諸點よりこれを考査するときその賢明さを疑はざるを得

ない。併し現世界の動向は明かにブロック經濟に向つて突進して居り、市場の爭奪は南米と支那とに激化すべく、列國の雌雄は支那市場に決せられるであらうことは疑なく、大平洋に雄飛する者は世界の羈者たるであらう。一九三五年を控へ、聯盟脱退し滿洲國擁護に任じ、強力ブロックの狭撃に遇ひ、これに對抗せんとする孤立日本は雄々しくも亦危なき岐路に立つものといはざるを得ぬ。

## 九、

世界を擧げて現在惱みつゝある不況の原因はこれを要約すると物價低落と貿易不振とに歸するを得やう。一九二九年の世界物價指數を百とすると三〇年は五〇・六六%、三一年は七六・六%、三二年は六七・九九%で昨年は二九年に比して約三二%減退を示してゐる。これを各國別に見ると英國は三二・三%、米・佛は三一・九%、我國は二六・八%丈け何れも下落を示してゐる。更に貿易についてこれを見ると二九年の約三分の一にしかあたらない。従て各國民の所得も四〇%の減少を來たし、財政に赤字問題が起る譯である。一九二九年の世界貿易額を百とすると、三〇年には英は一七・三%、米は二八・四%、佛は一二・二%、日本は二六%、三一年には英は三六・二%、米は五三・二%、佛は三二%、日本は四一・五%、又三二年には英は四七%、米は七〇%、佛は五五%、日本は四六%丈け何れも減退となつてゐる。

物價下落の現象は生産過剩の結果で、農産物その他原料品の滯貨は昨年度は一九二五年の二倍に上り金貨値段で五六%低下してゐる。こゝに注意すべきは世界生産指數が増加してゐない事實である。一九二五年—二九年を百として一九三〇年には食料品一〇二%、原料品一〇一%、工業品一一九%、平均一〇二%で、一九三一年は食



料品一〇〇%、原料品九一%、工業品九四%、平均九七%である。戦前世界の人口は年々一%弱増加し、食料品は二・二五%、その他の生産品は四%、平均三・一二五%の増加を大體繼續して來たのに比して何等の増加なしと見てよい。この見地から現下の生産過剰は生産増加に因るものではなく、購買力の低減に起因すると斷定し得る。而して購買力低減は主として國際經濟機構の破壊に基づくのであるから、これが建直し以外に不況打開の途がない。

然るに各國共に輸出を獎勵し、輸入を手控へ經濟國民主義の殻を彌々強化する手段を講ずるに没頭し、貿易の障害は質に於て惡化し、數に於て増加して來てゐる。從來貿易の障害をなした關稅障壁、爲替及び貿易の管理・制限——輸入割宛及び特許、原產地標記——爲替ダンピング制度、各種の獎勵金等の障害が加はり、更に輸入に際し輸送・保險を輸入國の船舶會社に依る條件を附して契約する等あらゆる手段を盡して餘さざる上に、英國はスカンディネーヴィア諸國、和蘭、アルデンチン等を英帝國ブロックに引入れてその強化作業が完成するにつれ、排日ポイコットが益々露骨となり、ブロック内特惠確保、最惠國約款排除を旨指して通商條約破棄の手段に出でた。その他諸國の他國品排撃、經濟的鎖國主義も日毎に尖鋭化しつゝある。政治・經濟逆轉、ブロック排撃時代が吾人に迫りつゝある。

## 十、

狹隘なる國土に年百萬を突破する人口増加と人口の都會集中なる事實とに直面しては商工立國以外に我國民の生き行く途を何人も見出し得ない。而かも今や世界の經濟的鎖國主義に禍されて八方塞りの世の中である。然ら

ば便ち新通商政策が今日の最急務といはねばなるまい。

近時我國工業の發達は科學の進歩と相待つて世界驚異的となつてゐる、中にも纖維工業の躍進振は諸外國をして脅威をさへ覺えしむるに至つた。新興工業たる人絹は過去六年間に三倍以上の製産増加を見、世界生産總額の四%より一三%に上り、第九位より第四位に進み、去年は製産額に於て英國との開が僅かに百萬封にせばめられた。そこで人絹界の第一人者たるコウトールド社本春總會に於てコウトールド社長は「關稅引上の如きなまやさしい手段では日本の人絹に對抗することが到底不可能である」と述べ、「この脅威殲滅には非常手段を必要とする」と論じてゐる。

かく發達した工業品が通貨膨脹と爲替安とに刺戟せられて海外に侵出するのであるから各方面に於て壓迫を加へられるのは當然と覺悟しなければなるまい。同時に又我國の工業材量が主として輸入品である關係からインフレーションと爲替安とが繼續しない限り昨年 of 如き好調を持續することは困難と見なければなるまい。恚した事情の下に海外の彈壓を排して我製品の市場を保持し、更にこれを開拓することは至難の業である。而かもこの難關を飛破するにあらざれば工業の前途も亦閉塞の運命に逢着する必然の運命にある。

稀に見た極めて少數の例外を除くと我國の貿易は年々順調に増加し來たつたといへやう、併し一九三〇年現在の我貿易總額は世界總額に對し僅々二・六二%を出でない。加奈陀、和蘭、白耳義、印度等にも及ばず第十位を占めてゐる程度である。貿易商品は極めて少數の種類に集注せられ輸出品の太宗たる生絲はその七・八〇%が合衆國向であり、これに次ぐ棉製品は東洋諸國を市場としてゐる。輸入品では棉花が最重要品で米國總輸出額の一〇・三%、英領印度總輸出額の三〇%餘が我國に來る。又羊毛に於ても濠洲總輸出高の一〇%が我國の輸入であ

る。貿易がこのやうに偏重してゐることはやむを得ざることではあるが、兎角海外の事情に支配され易く餘り好ましい現象とはいへない。更に小工業を奨励し、變化ある製品の貿易増加が必要ではあるまいか。

貿易の地理的分布状態を見ると亞細亞貿易が四〇%以上に達し、北亞米利加がこれに次ぎ三〇%以上を占め、歐洲はその次に位するが比較上の重要さは漸次乏しくなりつゝある。地理的關係からこれは寧ろ當然で何等異數ではなく、又一方我國の工業化を物語るものである。

近時の貿易状態を見るとその減少した方では輸出に於ては原料品と原料用製品とであり、殊に前者は高率の減退を示してゐる。又輸入に於ては全製品が斷然減少してゐる。又これを増加の方面から見ると輸出に於ては全製品が總輸出の五〇%近くまで増加し、製造食料品がこれに次ぐ。又輸入に於ては原料品が首位を占め總輸入額の五〇%以上に上り、原料用製品がその次に位するのを見ても我國の工業化が明瞭に伺はれる。

然らば我國貿易の重要性は時と共に東亞の天地に増大されることは疑の餘地があるまい。併し現今の工業化を一層進展せしむるためには新市場開拓を必要とする。然るに我國の貿易は從來國別的均衡を缺く嫌がある。昨年度に於ても對濠貿易は一億三千四百萬圓、對米は六千四百萬圓、對英は一千九百萬圓の入超を示し、對英領印度は七千六百萬圓、對蘭領印度は四千七百萬圓、對埃及は二千萬圓の各々出超を示してゐる。かく片貿易に流れることは極力回避すべきであるが、新市場に對しては殊に警戒しないと豫期せざる障害にぶつかる恐れがある。南米、中米、アフリカ諸國の貿易は本年上期輸出額は昨年同期に比して二倍乃至四倍の激増を示してゐるに拘らず輸入額は二分の一乃至四分の一程度に過ぎぬ。この不健全状態矯正のため原料給源地の擴張割宛を急務とする。而してこれが新市場開拓及びその確保に對する唯一の正道である。

對支外交、貿易の一日も早く常道に歸復することは極めて望ましいことではあるが、一部の人々が信ずる如く早急なる轉換を見るとは考へられない。矛盾旋風の渦中に彷徨する經濟的國民主義、ブロック經濟主義は手段を選ばず、如何なる策謀をも辭さぬ必死の努力を傾倒して日本品排撃、支那市場獲得の魔手を伸ばしてゐる。日滿支ブロック説の如き現實性なき空想に迷はず、統制あり時宜に即した貿易進展策を講じ、健實なる地盤の上に徐に支那及び英帝國ブロックに屬する英領印度、海峽植民地、香港、蘭領印度等への對策を練るのが賢明ではあるまいか。シムラの會議に多く望をかけるのは失望の來るを待つに等しからう。

聯盟脫退當時に豫期せられた貿易の阻害、金融の壓迫、信用の制限、軍備競争等は既に具體化し始めて來てゐる。而かもその効果の現はれて來るのはこれからである。我國商工立國の前途暗澹として、盤根錯節途に横はるを見る。思ふて爰に至れば非常時の正に非常時たるを痛感する。